

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970300287		
法人名	有限会社かもん		
事業所名	グループホーム やたさん元気村		
所在地	奈良県大和郡山市矢田町4446-1		
自己評価作成日	令和5年6月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2970300287-006&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2970300287-006&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和5年7月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな矢田丘陵に建ち、施設であっても「ごく普通の家庭で生活をエンジョイできるような空間づくりに努めています。コロナ禍となり数年、これまで行っていた泊旅行や合同運動会の大きな行事が出来なくなっていますが、感染予防に努め可能な限りでの近隣への散歩や施設内行事、外出の機会を持ち日々の生活に楽しみを感じていただけるよう支援しています。また自家農園で栽培している野菜や果物をたくさん使用した手作りの食事やおやつ作りを職員と一緒にこなしています。技能実習生、職員同士日々学びながらスキルアップを図り入居者様が快適かつ安心安全に過ごせるよう認知症ケア技術の向上に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、矢田丘陵の東の自然豊かなところにあり、木造2階建ての2ユニットのグループホームである。事業所のすぐ隣に本部があり、社長・マネージャー・看護師が中心となって、コンプライアンス(法令遵守)の徹底に努めている。また、管理者は職員の意見や提案をよく聴くと共に、職員のスキルアップのための研修にも力を入れている。やたさん元気村はその名前の通り、畑で収穫した野菜を食べ、週4回散歩に出かけ、利用者全員が元気に暮らしているとても家庭的な雰囲気のグループホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に掲示し、職員一同理念を念頭に置きながら日々の業務を行っている。	理念をホーム玄関に掲示し、全職員参加の月1回開催の研修時に理念を確認している。1月の年頭式で職員自らが作成した目標を発表している。今年の目標は「報連相をしっかり行う、笑顔を忘れず、レクリエーションに力を入れる、職員のスキルアップ」である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で行事自体が少なくなってしまう交流の場が減ったが、日々の散歩での挨拶や行事の機会に声を掛け合う等の交流をもっている。	法人代表は地元の方で地域に詳しく、自治会に加入しクリーンキャンペーンに参加している。利用者は散歩によく出かけており、初詣やとんど祭りに参加している。コロナ感染症対策をした上で、7月に大正琴のボランティア5名が訪問予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する理解を深めるため2か月に一度のホーム便りの発行、グループホームの理解に繋げるため運営推進会議の充実や地域行事への参加に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、運営推進会議を開き、課題などを報告して地域や行政の方々から意見を頂きサービス向上に取り組んでいる。	コロナ禍で運営推進会議は書面開催となっていたが、6月は家族3名と地域包括支援センター職員2名が参加して開催した。議事録は職員に回覧し、家族には郵送している。現在運営推進会議は利用者がデイケアに出かける木曜日に開催されているが、参加者の都合を考え、偶に土曜日開催にしてみるのも良いと思われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課や地域包括支援センターへ出向く等、連絡や報告を行い、良好な協力関係を築くよう努めている。	奈良県からコロナ5類移行について指導があり、市からはコロナワクチン接種6回目の案内メールが届いた。地域包括支援センターから困難事例の相談があったが入居に至らなかった。生活保護受給者が1名おられ、市と連携して支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念にも掲げ、研修の場においても職員に理解を深めてもらえるよう日々取り組んでいる。玄関の施錠やベルについては外部からの不審者を防ぐために行っており、ご家族への説明はしている。	身体拘束について昨年9月・今年3月に研修している。利用者への声かけを大切にし、ヒヤリハットを報告し合うことで見守りを強化している。5名の利用者は、転倒防止のためマットレスの下にセンサーマットを敷き、またドアに鈴をつけるなど工夫して見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や高齢者虐待防止マニュアルに基づく社内研修の実施、行政や多方面からの情報を随時提供し、職員間の申し送りの徹底をはかり防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の入居者もおり、研修時に権利擁護に関する制度について学び理解を深める機会を設け、適切な支援を行えるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明の後必ず質疑応答の時間を取り、納得を得られるよう心掛けている。また入居後の問い合わせ先を明示し、管理者も対応できる体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会、ご家族参加のイベント時や外部評価アンケートから頂戴した意見を本部、職員で共有し反映されるよう努めている。	現在コロナ禍で面会制限があるが、毎月担当職員が「一言通信」で利用者の様子を手書きで家族に伝え、写真も郵送している。またラインやインスタグラムでも家族と繋がっている。4・5月には家族面談を実施し、膝を交えた話し合いが出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、本部も交えた研修会を開き職員全員より意見や要望を発言する機会を設け、提案する内容が反映するように努めている。	管理者は職員に声かけすることで話しやすい雰囲気作りに努めている。技能実習生3名は日本語で意思疎通でき、丁寧なケアを実践している。社長は年末に全職員と個人面談し、意見の聴取をしている。職員からの意見で、玄関横に椅子置き場と手洗い場、洗濯干し場に雨除けの囲いが設置された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、自己評価、他者評価を行い年1回は代表と直接面談をしている。またキャリアパスの導入で各自向上心を持ち勤められるよう日々職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と判断した内外研修へは勤務内で行けるよう費用面含めバグアップしている。研修内容を施設内研修時に発表してもらい情報の共有を図っている。また新人スタッフには一定期間担当指導者がつき不安なく勤められるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等への参加により、交流する機会を設けており、ネットワークづくりやサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のペースと認知症状に合わせ、コミュニケーションをとるよう努めている。不安を感じやすい夕方から入眠前は思いを傾聴し安心してもらえる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最適なサービス提供が出来るよう入居後にご家族の思いや要望を可能な限りお伺いしている。入居初期は管理者よりこまめな連絡を行ない、お互いの理解を深められるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を確認し、管理者を中心に施設職員、弊社看護師、ケアマネと話し合いを行い必要とされているサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者も職員も共同生活者であるという考えで、野菜の皮むきや選別、洗濯物干しや畳み、掃除等の日常の家事を一緒に行い入居者から学んだり、支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人へのご家族の思いに添えるよう支援し、生活状態に変化があれば共に介護体制に加わっていただく等一緒にご本人を支えていける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会があれば、ご家族の理解を得た上で出来るだけ快く会っていただけるように支援しているが、感染症防止の為玄関先でのガラス越し面会等で工夫し対応している。	入居時、本人・家族から入居者情報を聞き取っている。現在、家族はマスク等基本的な対策の上、玄関で10分面会できる。コロナ禍ではあるが感染対策をした上で家族と葬式に行かれた方やアピタに買い物に行かれた方がいる。今後はコロナ収束状況をみて、個別支援を増やしていく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らんやレクリエーション等の機会を通じてお互いの懐かしい話や共通の話等で馴染みの関係となるきっかけ作りの支援を行ったり、共同作業(簡単な家事作業)でお互いが労り、支えあえる関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談には随時対応し、情報交換や助言を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居初期にこれまでの生活歴や思いを聞き取り、その人となりを把握するよう努めている。日々のコミュニケーションの中でご本人のニーズを引き出し、またご家族から情報を提供していただきその人らしい生活が送れるよう取り組んでいる。	利用者個別の「生活リズム表」は6か月ごと、「入居者状況」は誕生日ごとに見直している。個人介護記録には、日々の様子・つづやき・アセスメントが記入され、利用者の思いを把握して介護計画の見直しに繋げている。ハーモニカが好きな方の介護計画書に「ハーモニカの練習をしたい」と記載し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人ご家族や入居前に関わられていた方々からの生活歴等の情報提供をしてもらっている。また日々の何気ない会話や行動からも情報を得、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交代時に申し送りをすると同時に申し送りノートや日報、記事記録、一斉メール等を活用し、職員全員が共通認識として把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の研修時に担当職員を中心に本人の課題を話し合い、モニタリングを行いつついる。また、事前に聞いているご家族の意向も介護計画に反映している。	4月にケアプランについて研修している。介護計画書に「私の希望・私の困りごと」を具体的にあげ、それぞれについてモニタリング(達成度)、本人の満足度、今後の方針(評価)を話し合い、介護計画の見直しに繋げている。	各利用者の担当職員が、モニタリング・報告・相談をしながら介護計画の作成に関わっている。今後は外出も増えることから、短期目標に「家の様子を見に行きたい」「家族と外食したい」などをあげ、利用者の願いを叶える計画もあれば良いと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を身体面、精神面に分け分かりやすく個別に記録している。月末に担当者がモニタリングを行ない、月1ケアカンファレンスで情報を共有し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者を中心にご本人やご家族の思いやニーズに応えられるようにしている。充実したサービスを提供出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所や法人が持つネットワークを生かし、ニーズに合わせて提供できるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診時や往診時以外でも特変時や要望に相談できるよう支援している。また、弊社看護師が適時訪問し対応している。何かあればその都度ご家族へも連絡をしている。	事業所の協力内科医の訪問診療が月2回、歯科医が月1回ある。本人馴染みの主治医を受診している方が3名いる。毎週木曜日は、利用者全員がデイケアに出かけ、認知症のケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人看護師による24時間オンコール対応をしている。週に数回は定期訪問を行い、小さなことでもご本人や日頃関わっている職員が相談できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より病院の地域連携室と情報交換を行えるようにしている。入退院時には連携を強化し、カンファレンス等には弊社看護師、職員が参加する等退院後のフォローに備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点での思いをご家族から伺うようにしている。ご本人の思いは日々の何気ない会話から聞き取り、体調変化に合わせて適時ご本人ご家族から思いを聞いている。必要に応じてご家族、主治医、弊社看護師、ケアマネ、管理者とのカンファレンスを行なっている。	利用者が重度化した場合、看取りに関する指針を説明し同意書ももらっている。指針には、医師や看護師の体制・介護の体制や看取りに関する職員教育について詳細に書かれている。看取りケアプランがあり、2時間ごとに介護記録をとり、カンファレンスも実施している。昨年は3名の方を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて定期的に応急手当や急変時の対応を話し合い、勉強会をしている。また、緊急時の連絡系統を明確化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上避難訓練を行うと同時に避難方法等について話し合い、誰もが対応できるよう周知を徹底している。また、水害や土砂災害も想定したシミュレーションも行なっている。	昨年10月と今年3月に、利用者参加で消防訓練を昼間に実施した。夜間帯に火災が発生した場合、2名の職員でどのように全員を安全に避難させられるかの手順を確認した。法人代表は地元の方なので、地域との協力体制はできている。停電時に備えて発電機があり、水・カップ麺等の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であると考え、お手伝いを「している」ではなく「させていただいている」という思いを常に意識しながら対応している。	1月に接遇マナー研修を行い、接遇の基本「挨拶、身だしなみ、表情、態度、言葉遣い」について学び、職員で共有して日々実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の認知症状や身体状況に合わせて思いを表現できる場面や時間を作り、自己決定できるよう工夫に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活スタイルのペースはあるが、個々のペースに合わせ無理強いはしていない。常時、臨機応変に対応できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等ご自分で選んでいただくよう声かけし機会を作っている。髭剃りやヘアスタイル、化粧などその人らしい身だしなみが続けられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人農園で採れた野菜の選別、食事の準備や片付けは一緒に行っている。職員も同じメニューを食べ食事の楽しみを共有するようにしている。	元気村の畑で収穫した野菜を使い、家庭の味を大切にホームで調理している。朝食は米飯・お粥・トーストとメニューを変え、6角テーブルを囲んで食事している。誕生日会には手作りのケーキで祝っている。	夕食と次の日の朝食が毎日同じメニューになっている。衛生面も考慮して、献立について検討されることを希望します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度把握し健康状態に応じた適切な摂取量、栄養バランスになるよう支援している。また脱水予防の為、管理表を元に時間を決めて適時飲み物の提供を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し支援を行っている。自ら歯磨きをされる方もおられ入居者様も口腔ケアが習慣となっている。また希望者には訪問歯科による口腔ケアも月1で受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら誘導の声かけや介助を行っている。トイレにて排泄をしていただくことの重要性を職員全員が認識し一人一人の習慣やタイミングは把握し支援している。	毎日排便チェック表や飲水チェック表をつけ、6か月ごとに見直している。利用者個別の「生活リズム表」に排泄についての留意点を記している。病院から退院された方のおむつ外しに取組み、トイレで排泄できるよう支援している。現在、昼間布パンツの方は4名、夜間ポータブルトイレ使用の方が4名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握をし運動や食べ物、水分補給等の工夫を行ない便秘の予防に努めている。ただし排便困難な方には主治医や弊社看護師に相談しながら対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、タイミングは一人一人の心身の状態や要望に合わせて対応している。入浴日以外の日には足浴をする等リラックスできる時間を作っている。	利用者個別の「生活リズム表」に、入浴・更衣についての留意点が記されている。週3回、午前の散歩の後に入浴している。随時、シャワーや足浴もできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にて安心して休息していただけるよう本人の状況や好みに合わせて配置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調変化に応じ、医師の指示を受け看護師と調剤薬局との連携で服薬指導を受け職員全員が服薬内容等の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味趣向や生活歴等に配慮しホームでの生活にて役割をもつことで生き生きとした生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で以前より機会が少なくなっているが、感染状況を鑑みながら徐々に外出支援の機会を増やしている。今後は以前のように外食や買い物へ行きたいと考えている。	自然に囲まれ、近くに矢田寺・民族博物館・運動公園もあり、気温28℃以下を目安に、週4回散歩している。居間に散歩チェック表を貼り、散歩に行かれた方を記録している。玄関外に車椅子置き場、長椅子、手洗い場が設置され、散歩に出やすいよう工夫されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状故のトラブル防止の為、原則、保護者様に管理をお願いしている。買い物の機会などにはご自身でお支払いを行なっていただくなどの機会を作るよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった場合、電話の操作を支援したり話がうまく伝わらない場合は職員が間に入りながらご家族や知人との繋がりを大切に頂くよう取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーや作品、写真、季節の掲示物、花を生けるなど季節感を出しながら適度な生活感のなかで過ごしていただけるよう努めている。	窓から自然豊かな矢田丘陵の景色が見え、季節が感じられる。6角テーブルで食事し、テレビ前には全員がくつろげるソファがある。畳スペースでは、利用者が洗濯物をたたんでいる。玄関外には長椅子があり、テラスやベランダで日光浴・外気浴ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング等安全に自由に好きな場所で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた寝具や家具や寝具を持参していただいている。ご本人にとって居心地のいい空間作りが出来るようお持ち込み希望の物についての相談は柔軟に対応している。	居室ドアには、表札がかかっている。居室は、ダンス・ベッド・エアコンが置かれ、明るく窓からの景色も良い。写真など利用者好みのものを持ち込んで、居心地よく過ごしている。季節の入れ替えや掃除は、利用者担当職員が手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自己の能力をできる限り活かしていただけるよう、ご自分で出来ることについてはあえて介助はせず見守る等必要な介助を提供できるよう支援している。		